

テレビ局 CSR の根幹【放送の維持】

OHK技術部による新型コロナウイルス対策



OHK岡山放送では昨今の新型コロナウイルス感染拡大傾向の中、全社的な感染防止対策の基本方針のもと、番組制作や営業活動等に従事する社員・関連スタッフが、部署ごとにテレワークや時差出勤、複数班などの出勤体制を導入し、従業員やその家族の健康の保護に努めながら企業活動を行っています。

今回は、この状況下で放送を維持するため、また、その業務従事者の新型コロナウイルス感染を防止するために必要な運用方法を導入し、エリア内視聴者の皆様に番組を送出する技術部のマスター室運用をご紹介します。



マスター室に入室できるのは勤務者に限定。貼り紙で周知徹底しています。

通常マスター勤務者は2人体制で、その日に予定されていた番組やCMが正常かつ確実に放送されているかどうか、機器に異常がないかどうかを常に監視しています。また、突発的な事件・事故などの緊急特番や速報スーパーの送出手も対応しています。



マスター勤務者が入室前にアルコール消毒を行えるようボトルを設置。

現在このマスター室には原則、勤務者以外の入室を禁じ、マスク着用・室内外の消毒はもちろんのこと、ドアノブを経由した接触感染を回避するため、普段は閉めている扉を開放し、休憩するときもなるべく他者と接触しないよう混雑時を避けて過ごすなど、勤務者が感染しないよう対策を講じています。泊まり勤務の社員から日中勤務社員へ業務を引継ぐ際は、2mの間隔を空けて実施しています。特に技術専門職の人員は

限られており、勤務者がひとりでも感染すると本人に限らず同僚も濃厚接触者となれば勤務ができなくなり、日々の運用に影響を及ぼします。また緊急時の対応に不備が生じた場合、OHKの放送が停止するなどの重大事故につながる恐れがあります。

自宅で過ごす時間が多くなった皆様のために「おうちでOHK」を楽しんで頂けるよう、技術部では日ごろの行動から細心の注意を払って今後も放送を継続していきます。

